

石井鶴三関連資料の引き取りから覚書調印まで

郷原正好（信州大学附属図書館）

松本市美術館から信州大学附属図書館への搬送

2010年3月9日～11日にかけて松本市美術館にあった資料を搬送した。2月17日には、石井鶴三関連資料の寄贈相続人である岩部定男氏（以下「岩部氏」）、松本市美術館（以下「市美術館」）、信州大学附属図書館（以下「図書館」）の三者で市美術館に保管されている石井鶴三関連資料（以下「鶴三資料」）の信州大学への寄贈資料の確認、搬出日や方法などの打合せを行った。

市美術館の会議室に集められた鶴三資料の搬出は、3月9日から3日間の予定で始まった。当初、市美術館で作成した受け渡しリストに岩部氏が1点1点の承合確認を行い、受け渡しリストにサイン・押印する予定であったが、運搬が3日間と限られることから、1点1点の承合確認が時間的な制約からできなかつた。資料数点の確認と受け渡しリストに資料内容が未記入のものは内容を記入する作業となった。運搬作業は、図書館員4名を基本として、種類別に分けて番号を割振った段ボール箱に詰め込み、岩部氏の了解を得て運び出しを行った。受け渡しリストは作業終了日に岩部氏から市美術館に渡された。

市美術館から運び出した資料のうち書籍などは図書館に運び込んだが、その他の関連資料・美術品類は、図書館で受け入れる場所が用意できなかつた。鶴三資料の受入が決まった時、環境施設部に資料などの保存場所を打診していたが、本部管理棟で空室となっている部屋があった。財務部・環境施設部の全面的な協力により4階の旧SUNSマイクロ波制御室（約30㎡）（以下「鶴三保管庫」）を借り受けることができた。改装して保管庫として使用することができたのは運が良かったが、80箱以上の鶴三資料を狭い室内でどうやって整理するかが課題であった。段ボールの山積みで整理・調査が困難となることが容易に予想できたため、図書館で使われていないラックがあることを思い出し、これらのラックを据え付けて整理することにした。こうして鶴三保管庫が誕生したのである。



市美術館の会議室に並べられた鶴三資料

【市美術館からの鶴三資料の数量】

- ・書簡類：85 箱
書簡 14 箱，新聞・雑誌切り抜き 4 箱，彫刻 7 箱，愛用品 3 箱，印刷物 7 箱，他者作品など 10 箱，レコード類 4 箱，写真 4 箱，版木 3 箱，高田馬場資料 6 箱，全集・文集など編集資料 4 箱，その他資料 19 箱
- ・書籍類：40 箱

長原ルリヤ邸から信州大学附属図書館への搬送

岩部氏が、2010年3月上旬に図書館に来館された際に、「長原ルリヤ氏（石井鶴三の姪）が高齢であり入院中であることから出来るだけ早く高田馬場（東京都新宿区）の長原邸から資料を搬送したいこと、ワゴン車1台で足りること」が告げられ、3月下旬に大学のワゴン車で搬送することが決定した。

その後の経過により、搬送日は3月30日に決定。30日早朝に、筆者の他、図書館員2名がワゴン車1台に乗り込み、長原邸に向かった。長原邸に到着してから、最初に運搬する段ボール数を見積もったところ、予想に反して段ボールが多くワゴン車に積みきれないことがわかった。まず、図書などを近くの郵便局へ持ち込み、大学に郵送することにした。しかしもう1つ問題があった。道路事情が悪く、車1台が通るのがやっとの道幅で搬出は困難を極めた。長原邸にワゴン車を横付けし運搬したが、車が来るたびにワゴン車を動かすという、狭い道での車と資料との格闘となり車庫入れの高度なテクニックが要求された。それでも11時から始めた作業は13時過ぎには終了することができ、その日のうちに図書館に戻り資料を運び入れることができた。ワゴン車でブロンズを初めとした美術品の搬送は、道路の段差に細心の注意を払いながらの走行と、段ボール箱の積み卸し作業での注意が必要であり、精神的にも肉体的にも厳しい1日であった。

現在、長原邸から運び込まれた石井鶴三の母古稀像のブロンズ（1927年制作）は、図書館2階の入口ゲート前に設置され、図書館に入ってくる学生達を優しく見つめている。

鶴三資料は、市美術館と高田馬場からのものを合わせると、書簡類（133箱・包み）、書籍（62箱）となり、段ボール箱で鶴三保存庫は埋め尽くされたのである。

【高田馬場からの鶴三資料の数量】

- ・書簡類・美術品：29箱と19包み
ブロンズ1体，木彫2箱，スケッチブック6箱
- ・書籍類22箱



鶴三資料を鶴三保管庫に収納している様子（2010年3月31日）

鶴三資料の戦略的経費（学長裁量経費など）の要求

鶴三資料の寄贈を受けるにあたり、資料整理・調査研究の費用が必要であった。2010年3月18日の打合せでは、まずは学内経費を要求し、翌年は科学研究費などの外部資金を申請することにした。研究調査で人文学部の教員3名の協力を得て、5年間で約2,300万円の図書館事業とした。資料整理・調査費として図書館から学内戦略的経費を要求、2010年度は404万7千円と図書館運営費60万円、2011年度は300万円と図書館運営費60万円で進め、2011年度中に鶴三資料全点の仮目録調査を終了することができたのである。

資料整備・調査研究の第1回の打合せ（2010年4月22日）で今後の方針の確認を行い、5月12日に資料整理が開始された。



第1回鶴三資料整理・調査研究状況（2010年5月12日）

鶴三資料の寄贈に関する覚書調印と資料展示

2010年4月7日に本部事務棟5階会議室にて、寄贈に関する覚書の調印が岩部氏と山沢学長との間で取り交わされた。8日には、学内の学生教職員向けに、書簡をはじめ鶴三のスケッチブックや作品などの寄贈品の一部を特別展示公開した。覚書調印では多くのメディアにより新聞紙面に取り上げられるなど、鶴三資料を大学内外にアピールすることができた。



覚書調印と鶴三資料展示の様子